

山陽新幹線建設における トンネル工事の技術を追って

カメラ ルポ

東海道新幹線が開通して満5年、その便益は計り知れないものがある。国鉄はこの東海道新幹線を新大阪からさらに西へ伸ばすことを計画し現在山陽新幹線新大阪～博多間の一部、新大阪～岡山間161.8kmを昭和47年4月開通を目指して工事中である。同区間は161.8kmの35%にあたる57kmがトンネルであり、グラビヤではこのトンネル工事の技術の足跡を追ってみた。ここでは全線のトンネル工事において基本工法とされている底設導坑先進上部半断面工法を中心に、さらに離工事部分の工法、また機械化による施工を見てゆくことにした。

帆坂トンネル西工区における側壁コンクリートの足付け手前よりアジテーターカー(3m³)、ムカデコンベヤ(12m)、ずりトロ(6m³)、ロッカーショベルRS85が見える。